

作曲者がこの弦楽四重奏曲第一番に託した哲学

The philosophy that the composer has put into this string quartet

Surely now is not the time to eat the fruit of the Tree of the knowledge of good and evil(the Tree of Knowledge) but to dare to eat the fruit of the Tree of Life?

人類の歴史の外面を通観すると、人口は勿論、己から出てくる諸処の物質、記号、技術、機材、システムなどなどが増え続け、人間にとっての外的環境は、人間という自然を含みつつ全体としてはより人工的な物へと変わりつつあることが分かる。

子供の教育にしてもその成長に従ってどんどんと新しい文字や言葉を教えて行くし、それと同じように、音楽教育にしたって、最初は#もbもなかった楽譜に、学年が上がる度により多くのシャープやb、その他の音楽用語が増えて行く。少なくとも外見は高度差や多様性、複雑性が増し、それらは高尚なものも含むあらゆる音楽を実現し楽しむための条件のように信じられがちだ。原子力、電子技術、情報技術 (IT)、はたまた臓器移植や人工多能性幹細胞 (iPS 細胞など) の作成活用などの高度医療にせよ、まさに人類の長年にわたる同様の志向が近来、加速することで実現した精華に違いない。

だが、その思考はもとをただせば、「生命の木の実」をそっちのけにして「知恵の木の実」をこぞって食しあう、という事ではないだろうか？その結果、人類は未曾有の生命の危機を迎えつつあるのでは、と私は危惧する。個人の生命を伸ばすことに執着する唯物論的にして日常的な態度に私は「木を見て森を見ず」の愚かさが感じられてならないのだが。

全体よりも部分を優先する根性はまさに癌のそれだが、「足るを知れ！」というこの曲の理念が通用する相手ではないのかもしれない。賢明なあなたを除いては…。